

## トピックス

# 1. 「森林・林業再生プラン」の実現に向けて取組を開始

- 「森林・林業再生プラン」の実現に向け、平成23(2011)年度を「森林・林業再生元年」として、森林・林業政策の抜本的見直しを実施。
- 同4月に、森林法を改正。森林所有者が不明な場合における森林施業の確保、無届の伐採に対する行政命令の発出、面的なまとまりをもった「森林経営計画」等を導入。
- 間伐等の森林施業とこれと一体となった森林作業道の開設を支援する「森林管理・環境保全直接支払制度」を導入。
- 同7月に、「森林・林業基本計画」と「全国森林計画」を見直し。基本計画では、10年後の木材自給率50%を目標に設定。

## 新たな「森林・林業基本計画」の概要

### 森林・林業再生プランの推進

- ・森林・林業再生プランの実現に向けた目標や施策を明確化。
- ・森林計画制度の見直し、適切な森林施業の確保、路網整備の加速化、林業事業者・人材の育成、国産材の需要拡大と効率的な加工・流通体制の確立。
- ・森林の多面的機能の持続的発揮、雇用の創出による山村地域の振興、環境負荷の少ない社会の構築。



### 地球温暖化対策、生物多様性保全への対応

- ・京都議定書の目標の達成はもとより、低炭素社会の構築に向け、森林吸収量の確保、排出削減を推進。
- ・森林における生物多様性の保全の方針などを明確化。



### 国内外の木材需給を踏まえた対応

- ・住宅など建築用材の需要拡大に加え、公共建築物等の木造化、木質バイオマスの利用拡大等を推進。
- ・木材製品の輸出拡大に向けた取組を推進。



### 我が国経済の回復に向けた模索と山村の振興

- ・山村地域の主要産業である林業の再生を通じ、山村地域の雇用の創出、我が国経済の回復に貢献。



### 東日本大震災からの復興に向けた取組

- ・森林・林業の再生を図り、森林資源を活かした環境負荷の少ないまちづくりに貢献。



## トピックス

# 2. 東日本大震災や台風・集中豪雨等により災害が多発

- 平成23(2011)年は、東日本大震災により、森林・林業・木材産業に大きな被害が発生。特に、津波により、合板工場や海岸防災林に甚大な被害。
- また、同7月の「新潟・福島豪雨」、台風第6号、同9月の台風第12号、第15号等が相次ぎ、山地災害が多発。
- 林野庁では、被災箇所の早期復旧に取り組むとともに、地域の基幹産業として森林・林業の再生を進め、被災地の復旧・復興に貢献。



合板工場の被災状況  
(岩手県宮古市)



海岸防災林の被災状況  
(岩手県野田村)



台風第12号に伴う豪雨による被害  
(奈良県五條市)

## トピックス

### 3. 「2011 国際森林年」の盛り上がり

- 平成23(2011)年は、国連総会の決議に基づく「国際森林年」。期間中、「森を歩く」を国内テーマとして、記念会議やシンポジウムの開催、新聞やテレビ等を通じた広報活動など、様々な活動を展開。
- 国連本部でのクロージングセレモニーでは、「森は海の恋人」をテーマに植樹活動を行ってきた<sup>はたけやましげあつ</sup> 畠山重篤氏を「フォレストヒーローズ」として顕彰。
- 今後も国際森林年の取組を継続するため、メッセージ「森のチカラで、日本を元気に。」を発出。



「国際森林年子ども大使」を務めた  
「葉っぱのフレディ」



国際森林年のロゴマーク



フォレストヒーローズの受賞報告  
(<sup>はたけやましげあつ</sup> 畠山重篤氏(左から2人目))

## トピックス

### 4. 小笠原諸島が世界自然遺産に決定

- 平成23(2011)年6月に、ユネスコ本部で開催された「第35回世界遺産委員会」において、「<sup>おがさわら</sup>小笠原諸島」の世界遺産一覧表への記載が決定。「<sup>やくしま</sup>屋久島」、「<sup>しろかみ</sup>白神山地」、「<sup>しれとこ</sup>知床」に続き、我が国で4件目の世界自然遺産。
- <sup>おがさわら</sup>小笠原諸島における世界自然遺産地域の陸域の約8割が国有林。林野庁では、これまで、希少な野生動植物の保護、外来種の駆除、森林生態系保護地域の利用ルール導入等の保全対策に取り組み。
- 今後、<sup>おがさわら</sup>小笠原諸島における外来種の侵入予防など自然環境の保全対策を更に強化。



<sup>おがさわら</sup>小笠原諸島の森林



森林生態系保護地域における  
利用ルールの導入(ガイドの同行)